



# 開田小学校だより



令和5年1月27日（金） 文責：北原 健吉

1月10日(月) 47日間の3学期が始まりました



【学年代表の作文発表】

1月10日（金）に3学期始業式を行いました。学年代表の作文発表では、「字を綺麗に書きたい」「自信を持って発言する。真っすぐ手を挙げる。大きな声で言う」「（総合的な学習で飼育している）イモリのお世話をしっかりやる」「4月から6年生になるので、みんなのお手本となるようにしたい」「漢字テストが低い点だったので、工夫して覚えたい」など、具体的に自分が目指す姿を発表する様子が見られました。

校長先生からは、「笑顔で自分からやってみよう」というテーマでお話がありました。3学期は47日間と短い学期です。なりたい自分を目指して頑張りましょう。校長先生が好きなことわざは「笑う門には福来る」です。昔からよく言われることですが、科学的にも証明されています。体と心は繋がっていて、同じものを見ても“笑顔”で見るのとしかめっつらで見るのでは、おもしろさは20ポイントも変わるそうです。つまり「楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しい」ともいえるのです。「笑顔でいる。笑っている。頷いている」といろんなことが「面白くなるし、楽しくなるし、よくわかる（かも）」んです。逆に言えば、「不機嫌な顔でいる」と、いろんなことが「面白くなく、つまらなく、わからなく（感じてしまう)」。ぜひ3学期は、気分が乗らないから「あいさつしない」ではなく「あいさつをして気分を上げましょう」



【校長先生のお話】



【校庭ではクロスカントリースキーがはじまりました。】

## 1月12日(木) スキー教室



【スキー教室はじめての会】



【御嶽山を見ながらのスキー】



【インストラクターさんからご指導】



【お昼のカレーは美味しかった】

1月12日(木)にスキー教室が行われました。雪も良好、晴天。日中は動くと汗ばむくらいのスキー教室です。木曽町でクロスカントリースキーを行っている学校は開田小学校だけだそうです。開田小学校の子どもには、ぜひスキーが好きで、スキーに自信がある子どもになってもらいたいと思っています。

グループに分かれてスキー教室が始まりました。スキーが上手な子が多くびっくりしました。そして、インストラクターの先生のわかりやすい教え方、子どもをよく見て、ほめて、勇気づける指導にも、私たち教職員が学ぶことが多い、スキー教室でした。

## 1月17日(火) 稗田の碑 学習(4年)



【みんなに聞いてもらいたい！ 加村さんの興味深いお話し】



【この地に立って、この青空を昔の人も見ていたのですね】

4年生は社会の学習で「稗田の碑」について学びました。講師には、公民館長大畑さん、地域の歴史に詳しい加村さん、バスの運転として志水さんがお見えになり、教室で事前学習を行い、その後現地見学を行いました。160年程前の開田は、とても寒く、霜雪がないのは、六、七月だけであり、人々は木こりで生計を立てていたが、材木が減りとても困っていた。そこで末川の庄屋さん（末川では中村彦三郎）が山村代官に訴え、その訴えを尾張藩に届けてもらい、1748年に資金をいただいて稗田を開墾。この開墾の途中で庄屋さんは耳が聞こえなくなりましたが、山村代官は庄屋の息子を新たな庄屋に任命し事業を引き継がせた。この部分を聞いただけでもドラマチックであり、山村代官さんの人物の素晴らしさも伝わってきました。稗（ひえ）よりお米の方が税金は高くなるが、お米を食べることで筋肉を増やし厳しい寒さに耐えうる体になっていったそうです。歴史だけでなく、加村さんが経験した雪の多さや、囲炉裏でいぶされて外に出ると眩しくて目が見えない“雪目”への対応として鶯の卵の黄身を感想させて目薬代わりにしていたこと。薪の運び方など経験した人でなければ分からない苦労や工夫を知る貴重な機会となりました。開田を切り拓いた先人たちの苦労や凄さの一端に触れ、子ども達は、その子孫であることに誇りに似たものを感じ取ったようです。

## 1月17日（火）ふるさとCM大賞表敬訪問（4年）

先月号でもお知らせしましたが、『ABN ふるさとCM大賞』で4年生が開田科で作成した「おいでよ 開田高原」が敢闘賞を受賞しました。1月3日のテレビ放映を見ていただけましたか？木曾町役場に受賞の報告に行き、町長さん、教育長さんをはじめ、多くの職員の皆さんにお祝いしていただきました。短い30秒のCMですが、たくさんの人に見ていただいて、開田高原の素晴らしさを知っていただきたいと思います。



【「開田にたくさんの人に来てほしい」と4年生】

## 地域起こし協力隊の若者が「コビリとアソビ」

「地域おこし協力隊」って知っていますか？過疎の地に都会から人を受け入れ、地方創生に一役買ってもらうとともに、定住促進をねらう総務省の仕組みです。開田にも何人かの協力隊の方がいますが（任務は1年～3年です）、その中の服部泰英さんと田中元彬さんは、開田の学童にもお勤めで、開田の子どもたちのために、いろいろと力を貸してくださっています。服部さんは、月食観測会、ニゴづくりでお世話になり、田中さんには中学校の部活動指導員やスキー教室でもお世話になりました。1月22日には、田中さんが「コビリとアソビ」という休日のイベントを企画して、餅つきをやってくれました。地域ぐるみで子どもを育てる開田小学校は、とても恵まれた学校です。



【「久しぶりにやったよ」と梶川さん】

## 保護者の皆様へ連絡

- ① 体罰アンケートご協力ありがとうございました。集計の詳しい結果について学校評価と合わせて、3月に配布いたしますが、体罰事案として挙げられたものは1件もありませんでした。
- ② いじめ・暴力アンケートへのご協力ありがとうございます。結果については①と同様に報告いたします。児童からの訴えにつきましては、真摯に受け留め、傷ついている子ども、傷つけている子ども、周りの児童、全ての教職員が自分ごととして解決に当たっていただけるよう努力して参ります。困ったことがありましたら、今後とも学校にご相談ください。
- ③ 開田高原 CS 運営協議会主催「開田小応援団茶話会」が下記の日程で開かれます。運動会の後に行った「開田小応援団のお茶なし茶話会」のお茶ありバージョンです。誰でも参加していただきたいと思っております。保護者の皆様も短時間でもおでかけください。校長が小学校の未来を熱く語ります。(笑)

開田小応援団茶話会 2月23日(木)天皇誕生日 13:30～ 末川研修センター

## 校長室だより 林 久美 R5.1月

民維鋤深耕易耨稗菽稻粱餓寒可救為醴為醪以養骨壽蒼天与仁永寧後日

(加村さんの訳し文)

人々は土を鋤(すき)を以て深く耕し、耨(くわ)をもって、稗(ひえ)、菽(まめ)、稻を作り、飢えと寒さを救うべく穀物を醴(あまぎけ)となし、醪(もろみ)となし、もって、体を養い、青空を寿(ことほ)いでいます。人々の未来は永くやすらかです。

開田高原にある3つの<稗田の碑>について、4年生と一緒に学びました。担任の小松先生は本校2年目の若い先生ですが、地域学習をすすめるうち、何としても実際に稗田の碑を見ながら、加村さんのお話を子どもたちに聞かせたいと、この校外学習を企画してくれました。

稗田の碑には、極寒の地で水田開発にかけた人々の思いと苦勞が刻まれていることを知りました。西野にお住いの加村さんが苦勞をして訳した読み下し文と漢文を照らし合わせて読んでみます。少し見慣れたてきたはずの開田高原の冬の青空が、ことさら青く眩しく見えます。当時の人々がようやくできた水田に初めて稗(ひえ)が茂った時、「青空を寿(ことほ)ぐ」様子が胸に迫ります。

昭和44年、東小学校に赴任した澤頭修自先生は、開田高原に惚れ込み、「木曾谷の上に広々と明るくひらけた開田高原。ムラ人の心は暖かく古い民話や民族が生きている。村全体が自然民族博物館」と記しました(『御嶽の見える村』澤頭修自)。柳又の遺跡を発掘したのも開田に赴任した小学校の先生であったとお聞きしました。

開田高原に赴任した学校の先生は、たとえよそ者でも、この地の自然や文化に魅了され、それを子どもたちに伝えます。昔から、学校とは子どもに教えることを通して、地域の伝統や文化を守る場となり、継承する役割を担ってきたのだと思います。

地域の皆様、皆さんの経験や知識、技能など、子どもたちに伝えたいことはありませんか。保護者の皆様子どもたちと一緒に学びませんか。私は学校を、この地の自然や文化を、地域の方と子どもたちが一緒に学ぶ自然博物館にしたいと思っています。地域のすばらしい文化や伝統は「教育」という日の目をみることで伝承されていきます。

